



ペンギン 入試レポート 2019年1月号

「ペンギン入試レポート1月号(東京都立高校入試版)」では、2018年度入試の第一次募集・分割前期募集での学力検査の出題傾向と対策を掲載しました。分析をもとに、入試までに準備しておくことをまとめていますので、学習の参考にしてください。

臨海セミナーでは、志望校合格という15歳の一つの大きな夢の実現に向けて、職員一同できる限りの応援をさせていただきます。「情熱なき講師は去れ」「わかるまで教える、それが臨海」という方針のもと精一杯の指導をさせていただきます。入試に向けてご質問、ご相談などございましたら、お通りの教室までご連絡ください。

◆東京都立高校入試日程

推薦募集願書受付日	2019年 1月23日(水)
推薦試験日	2019年 1月26日(土)・27日(日)
推薦合格発表日	2019年 2月 1日(金)
第一次募集・分割前期募集願書受付日	2019年 2月 6日(水)・ 7日(木)
第一次募集・分割前期募集願書取下げ	2019年 2月13日(水)
第一次募集・分割前期募集願書再提出	2019年 2月14日(木)
第一次募集・分割前期募集試験日	2019年 2月22日(金)
第一次募集・分割前期募集合格発表日	2019年 3月 1日(金)
第二次募集・分割後期募集願書受付日	2019年 3月 6日(水)
第二次募集・分割後期募集願書取下げ	2019年 3月 7日(木)
第二次募集・分割後期募集願書再提出	2019年 3月 8日(金)
第二次募集・分割後期募集試験日	2019年 3月11日(月)
第二次募集・分割後期募集合格発表日	2019年 3月15日(金)

◆東京都立高校入試平均点推移

年度	英語	国語	数学	理科	社会
2018	68.0	65.9	66.5	61.5	61.5
2017	57.8	69.5	56.3	55.9	58.6
2016	57.4	73.9	60.9	50.6	59.3
2015	53.4	65.6	62.0	59.4	59.1
2014	53.7	61.6	57.6	57.3	57.4

都立 共通問題 英語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

問題の構成は例年どおり大問4題、小問23題の出題です。英文記述の問題は今年も、リスニングの英問英答と英作文の2題でした。

①はリスニング問題で、短い対話や英語の案内を聞き、その内容に関する問題に答えるものです。どの設問も放送される質問文を聞き取って答える必要があり、毎年多くの受験生が苦戦するので、しっかりとした対策が必要です。

②は資料を伴った短い対話文やEメールの文を読んで答える問題で、最後に英作文が出題されています。英作文は昨年同様、Eメールの一部を3つの英文で書いて完成させるものでした。「自分が今楽しんで勉強しているもの」というテーマを文中から読み取った上で、全体的にまとまりのある内容となるように英文を考える必要があるため、難しいと感じた受験生は多かったはずでした。

③・④は長めの文章を読んで答える問題です。③は会話文読解問題で、下線部と前後の文の関係や登場人物と話題の関係を把握する力が求められます。④は長文読解問題です。例年通り、本文の内容に関する問題と、本文の流れに沿って4つの文を並べかえる問題が出題されました。文を並べかえる問題は、段落ごとの話題を把握できれば容易に解答できる問題です。④は特に語数が多い文章だったため、英文を速く正確に読む力が求められました。

入試までに準備しておくこと

出題形式の細かい変化を除きおおむね傾向は変わりませんので、過去問や似た形式の問題を多く解くことが有効です。特に、②の短文読解・③の会話文読解・④の長文読解と、文章を読んで答える問題が17題・68点分あるので、英文を速く正確に読む練習をする必要があります。はじめのうちは教科書レベルの文章で構いませんので、日頃から多くの英文に触れるようにしましょう。指示語の内容や接続詞に注意しつつ、段落ごとの大まかな内容を把握しながら読む練習をすると効果的です。英作文問題は、基本的な単語・表現や文法を活用した平易な英文でよいので、自分の考えやその理由を正確に書く練習をしましょう。中学校3年間で学習する単語・表現や文法事項を、教科書などを使って復習することが有効です。また、ミスの有無を確認する習慣をつけることも大切です。リスニング問題は、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。過去問や英検3級程度のリスニング問題で練習するとよいでしょう。

英語 分野別出題形式		30年度	29年度	28年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	16	16	12
	記述	英問英答	4	4	8
		和問和答			
小計		20	20	20	
語彙	記号	語形変化			
	記述	発音・アクセント			
		綴り			
小計		0	0	0	
文法	記号	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
	記述	語順整序			
		部分英作文			12
小計		0	0	12	
読解	記号	内容理解	24	24	24
		内容一致	24	24	24
		段落・文整序	4	4	4
	記述	適語(句)・文・節選択	16	16	12
		語順整序			
		内容理解(指示語など)			
		語形変化			
		空所補充			4
		和文英訳			
		部分英作文			
英問英答					
条件英作文	12	12			
和問和答					
小計		80	80	68	
合計点		100	100	100	

都立 共通問題 国語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

昨年と同様、大問 5 題、小問 25 題の構成で、記述型の設問は漢字と 200 字作文のみでしたが、今年から作文の解答欄のマス目が大きくなったことに伴い 25 字×8 行から、20 字×10 行に変更されました。

1・2の漢字の読み書きは例年通り、書きは小学校、読み

は中学校までの学習範囲からの出題、2の(4)の「チュウサイ」

⇒「仲裁」は小学生で習う漢字ではあるが、使用頻度の低い熟語であるため難しいと感じた受験生も多いでしょう。

3の文学的文章は、登場人物の様子や心情の読み取り中心の出題。昨年に引き続き全て記号選択型の設問で、難度は高くありませんでした。

4は「意志」についての説明的文章でした。設問構成はほぼ

例年通りで、傍線部の理由や段落の関係を読み取るものが出されました。文章の論理展開も設問の選択肢も読み取りにくいものが多く、正答の根拠となる内容が見つげづらい問題もありました。問 5 では、体験や見聞を踏まえて自分の意見を書く 200 字の作文が出題されています。

5は古典を引用した複数の文章を読む問題です。26年度は短歌(百人一首)、27年度は能の台本、28年度は古文(枕草子)、29年度は俳句(松尾芭蕉)、今年も漢詩(夏目漱石)を題材とした出題でした。昨年と同様、複数の文学作品を取り上げた対談形式の文章で、昨年出題のあった歴史的仮名遣いについての設問はなくなり、代わって修飾語・被修飾語の関係の問題が出題されました。

入試までに準備しておくこと

小・中学校で学習した全ての漢字について、読み書きの復習が必要です。文学的文章では、教科書レベルのものからでよいので、登場人物の心情を押さえながら読む練習が必要です。また、表現や情景描写から心情を理解、説明できることも大切です。説明的文章については、普段から段落の役割を意識し、筆者の主張を正確にとらえる練習を重ねましょう。古典を引用した複数の文章では、古典の内容は現代文に書かれている場合が多いとはいえ、歴史的仮名遣いなどの基礎的な読解法や、文法などは身につけておくべきです。また現代文の部分は、評論文、会話文と多岐にわたるので、さまざまな形式に慣れておく必要があります。

200 字で記述する作文は 10 点と配点が高いので、短い時間で自分の体験などをテーマに合わせて書き上げる練習の積み重ねが必要です。

国語 出題分野一覧表		30年度		29年度		28年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字 語彙	漢字の読み取り		10		10		10
	漢字の書き取り		10		10		10
	四字熟語・語彙						
文法・表現		5				5	
敬語							
小説	心情・様子を問う設問	15		15		15	
	理由を問う設問	5		5		5	
	表現に関する設問	5		5		5	
	語句						
本文との正誤問題							
論説	語句・接続語						
	傍線部の理由を問う設問	10		10		10	
	傍線部の説明を問う設問	5		5		5	
	段落・内容	5		5		5	
	本文との正誤問題						
古典を引用した複数の文章	古典・語句知識			5		10	
	短文作成						
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問	15		15		10	
	対応箇所指摘	5		5			
本文との正誤問題							
作文			10		10		10
合計			100		100		100

都立 共通問題 数学 出題傾向と対策

出題傾向の分析

問題構成は大問 5 題、うち 1 題が独立小問集合形式で、総小問数は 19 題と変化はありませんでした。

1は正負の数、文字式、根号を含む式の計算、1 次方程式、連立方程式、2 次方程式、資料の整理、平行線と角、対称の軸の作図の 9 題、どの問題も平易なものでした。

2は立体の表面積について、文字を使って説明する問題。2におい

での図形分野からの出題は 5 年ぶりでしたが、過去の入試問題などで練習して

いれば対応できるものでした。3は関数とグラフの問題。問 3 では、文字を使っ

て座標を表しながら解き進める問題で、難度は高くはないものの、論理的に考える力と確かな計算処理能力が試されました。4は平面図形の問題。問 1 は、例年

出題されている文字を使った角度の表現、問 2①は合同の証明でした。問 2②は、相似な図形を利用して、三角形と四角形の面積の大きさを比べる問題。中点連結定理や相似な図形に関する技能が試される難度の高いものでした。また、線分の長さが与えられていない図形で面積比を求める出題は、公立入試ではあまり見ら

れないため、受験生を悩ませたことと思います。5は空間図形の問題。問 1 は立

体内の図形の角度を求める問題で、正三角形になることに気付けるかどうかのポイントとなりました。問 2 の体積を求める問題は三角錐の体積を求める問題でしたが、昨年度よりは易しく、平面図形、空間図形についての基本的な知識・技能が身につけているかが試されました。

入試までに準備しておくこと

特別な三角形・四角形や円、相似な図形や三平方の定理といった、平面図形の性質を利用した出題が多いことが特徴です。まずは、教科書やワーク・塾のテキストを使って、平面図形の基本的な知識・解法の技能を身につける必要があります。次に、過去の入試問題を使って、実戦的な演習を行うようにしてください。関数や空間図形などでも、場面に応じて、技能の使い分けができるような対策が必要です。

毎年出題されている式による説明の問題は、教科書などに載っている基本的な問題で力をつけてから、過去の都立高校入試問題を演習するとよいでしょう。他県の公立高校入試問題でいろいろなタイプの問題に触れておくことも良い対策になります。1の小問集合での得点も外せません。日ごろから学校の定期試験や模擬試験でもしっかり準備をして、どの単元についても基礎をしっかりと固めておくことが重要です。

領域	内容	配点		
		30年度	29年度	28年度
数と式	数の性質・表現		5	5
	数の計算	5	5	5
	式の計算	5	5	5
	平方根	5	5	5
	多項式の乗法 因数分解			
小計		15	20	20
方程式	1次方程式	5	5	5
	連立方程式	5	5	5
	2次方程式	5	5	5
	方程式の応用			
	不等式・不等式の応用			
小計		15	15	15
関数	比例と反比例			
	1次関数		5	5
	2次関数			
変化の割合・変域		5	5	5
関数と図形	直線と曲線			
	関数と図形	10	10	5
	小計		15	15
三角形 四角形	角度	5		5
	作図	6	6	6
	合同	7		
	相似		7	7
	三角形 四角形			
円と 平面図形	円周角の定理	5		5
	円と弧・弦・接線		5	
	線分、線分比		5	
	面積、面積比	5		5
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比		5	5
	面積、面積比			
	体積、体積比	5	5	5
	点の移動と図形			
	角度	5		
小計		38	38	33
確率	資料の整理	5		5
	場合の数			
	確率		5	
標本調査				
総合問題	数と式		7	7
	図形と式	12		
その他				
小計		17	12	12
合計		100	100	100

都立 共通問題 理科 出題傾向と対策

都立 共通問題 社会 出題傾向と対策

出題傾向の分析

出題形式、傾向は例年通りで、基本問題が多くならびました。全体として、解き易かったといえます。高得点を十分に狙える科目といえます。

1は、例年と同じく、小問ながら実験や観測結果の正しい理解を求める問題。また、実験を行う上での注意点に関する出題もありました。2は、身近にある理科の現象を元にした問題。仕事の大きさや雲のでき方、鉄の酸化、落ち葉などの分解についての知識が問われました。

3は、露頭の観察から地層のでき方や地層ができた当時の様子、化石についての出題でした。解法のテクニックを要するものではありませんでしたが、スケッチや観察結果を結びつけて考える点で時間を要したことと思います。

4は、植物のからだのつくりやはたらきについての問題。蒸散の実験は定期テストでも見られる葉の表・裏の蒸散量の比較でした。つづく光合成についての問題は、立てた仮説の正否を、実験を通じて確かめる計画を立てて検証する問題でした。対照実験での判断や考察に慣れていないと少し苦戦したかもしれません。

5は、電池の仕組み、電気分解、燃料電池といった化学エネルギーと電気エネルギーの移り変わりをテーマにした問題。基本的な原理についての設問で、解答もしやすかったと思います。6は、コイルに電流を流したときに生じる磁界と導線(金属棒)にはたらく力、電磁誘導と誘導電流の向きに関する出題でした。電磁誘導では、磁石の向き、コイルの位置の変化までしっかり見極めて電流の向きを判断する必要性がありました。

入試までに準備しておくこと

出題内容は定期テストでも頻繁に扱われるものが多くありました。受験生の多くが、類題の練習を経験してから入試を迎えることができたのではないかと思います。その分得点に差がつきにくいので、1問のミスで大きく順位が変わってしまうといえます。また、実験とその結果・記録について、正しく理解・判断ができているかどうかを問う出題もいくつか見られました。対策としては、まず実験と結果から考察する問題を十分に理解できるまで練習し、原理現象を深く理解することを心がけるようにしてください。次に、仮説や実験の計画を立てる問題を練習すると成果が上がると思います。近年上記のような出題は全国的に多くなっていますので、ぜひ全国の高校入試問題にもチャレンジしてください。

分野	30年度		29年度		28年度	
	出題内容	配点	出題内容	配点	出題内容	配点
物理	凸レンズと像	4	電流と磁界	4	物体にはたらく力	4
	台車の運動の速さ	4	回路と電圧、電流	4	凸レンズのつくる像	4
	仕事と仕事率	4	光の屈折	4	音の高低・大小	4
	電流のつくる磁界	8	力のはたらきと速さ	8	電流計の使い方	4
	回路と電流	4	力の合成と分解	4	回路と消費電力	8
	電磁誘導	4	運動とエネルギー	4	エネルギーの変換	4
小計		28		28		28
化学	物質の溶解度	4	電圧とイオンの移動	4	質量パーセント濃度	4
	実験操作	4	石油の分留	4	状態変化と密度	4
	化学変化と熱	4	物質の密度	4	電気分解	4
	電池の仕組み	4	物質の性質	4	中和と塩	8
	電気分解のようす	4	化学変化と物質の性質	4	中和とイオンの数	4
	水素と酸素の化合	4	酸化と還元	4		
小計		24		24		24
生物	細胞と染色体	4	遺伝と形質	4	血液の循環	4
	刺激の伝わり	4	脊椎動物の分類	4	生物のつながり	4
	分解者のはたらき	4	唾液のはたらき	4	植物のつくりと分類	4
	植物のからだのつくり	4	消化酵素と温度	4	遺伝の規則性	12
	植物のはたらき(蒸散)	4	消化液、消化器官	4		
	植物のはたらき(光合成)	4	消化と物質の変化	4		
小計		24		24		24
地学	太陽の観測	4	マグマの性質と火山	4	火成岩のつくり	4
	雲のでき方	4	月の満ち欠け	4	地震計の記録	4
	鉱物とマグマの性質	4	地層のでき方、つながり	4	大気中の水蒸気	4
	堆積岩の特徴	4	気象の観測と変化	4	衛星、惑星の高度	4
	示準化石	4	前線の通過と天気	4	月と金星の満ち欠け	4
	地層のでき方	4	日本の天気	4	惑星・衛星の公転	4
小計		24		24		24
		100		100		100

出題傾向の分析

問題構成は例年通り大問 6 題、総小問数は 20 題でした。昨年から復活した完全解答形式の設問は 5 題から 7 題に増加しました。設問の難度自体は高くはありませんが、様々な知識を組み合わせる必要があったため、得点しにくかったと思われます。また、資料を読み取る記述問題は昨年と同じく 2 題でした。

1は小問集合です。問 3 は昨年の語句の記述から記号選択に変わりましたが、さらに今年は知識がなくても計算をすることで正答にたどり着ける問題に変わりました。

2・3は世界地理・日本地理からの出題です。各国・各都道府県や地域ごとの特徴を理解できているかを問う設問が多いです。3の問 3 の記述問題は、昨年までは資料を元にある出来事が起こった理由を記述する形式でしたが、今年からは資料から読み取ったことを自分の言葉で内容をまとめて書く形式となった為、解きやすいと感じた受験生が多かったのではないのでしょうか。

4は歴史からの出題です。歴史的なできごとが起こった時代・年代を丁寧に確認すれば解答することは可能ですが、年代の並べ替えの設問が 2 題に増加したため、解きにくいと感じる受験生が多かったと思われます。

5は公民からの出題、6は世界の国々の経済発展をテーマとした総合問題です。5の問 3 の記述問題は、3の問 3 と同様、与えられた資料から読み取ったことを自分の言葉で書く形式でした。6の問 1 では各国の特徴を地理と歴史それぞれの分野から考える必要があり、多角的な知識が求められました。

入試までに準備しておくこと

完全解答形式の問題が増えるなど多少の変化はありましたが、傾向は比較的安定しているといえます。都立高校入試の過去問を数多く解くことが最も有効な対策となるでしょう。ただし、来年から傾向が変わらないという保証はありません。他県の公立高校入試問題も解き、急な傾向の変化にも対応できるようにしておきましょう。

選択肢の文が長いことも例年通りの特徴です。必要な内容をすばやく正確に読み取り、ポイントとなる語句を発見する練習を積むとよいでしょう。国や都道府県などの特徴は、地理・歴史の分野にとらわれずに併せて覚えることが効果的です。記述問題は傾向が変わる可能性も考慮し、資料から必要な情報を抜き出すだけでなく、自分の言葉でまとめる練習もしておくとよいでしょう。

		単元	30年度	29年度	28年度
世界地理	世界のすがた	緯線・経線			○
		時差			
		地形			
	気候	気候のようす		○	○
		雨温図	○		○
	生活文化	生活・文化			
		人口・宗教		○	○
		産業・貿易	○	○	○
		エネルギー			
		各国のようす	○	○	○
	資料分析				
日本地理	農林水産業	農業	○	○	○
		林業			
		水産業			
		工業		○	○
		その他の産業			
	気候	気候のようす			
		自然・災害			
		各地の特色	○	○	○
		地形図	○	○	○
	その他	交通・通信			
貿易			○		
都市問題					
	資料分析		○	○	
歴史	旧石器～平安	政治		○	
		社会経済文化	○	○	○
	鎌倉～安土桃山	政治			
		社会経済文化	○		○
	江戸	政治	○		○
		社会経済文化		○	○
	明治～第二次大戦	政治	○	○	○
		社会経済文化	○	○	○
		現代	○	○	○
		世界史		○	
	資料分析		○		
公民	現代社会				
	政治	人権	○	○	○
		憲法	○		
		選挙		○	
		国会			
		内閣			
		裁判所			○
	経済	三権分立			
		地方自治			
		消費・流通		○	
価格・物価					
生産・企業			○		
金融				○	
	労働			○	
	社会保障			○	
	財政	○		○	
	国際社会	○			
	資料分析	○	○	○	
配点	地理	40(45)	35	40	
	歴史	25(30)	35	35	
	公民	30	30	25	